

令和 3 年度

附属図書館活動報告書

東京大学附属図書館

## 目次

1. 令和3年度の特記事項 .....	1
1.1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策への対応 .....	1
1.2 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み .....	2
1.3 電子リソースへのアクセス環境改善 .....	4
2. 研究成果の発信、資料の電子化 .....	5
2.1 東京大学学術機関リポジトリ（UTokyo Repository） .....	5
2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業 .....	5
2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業 .....	5
3. 利用者サービス、ガイダンス、広報 .....	7
3.1 障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービス .....	7
3.2 図書館ガイダンス、講習会等 .....	7
3.3 各館の広報 .....	9
3.4 キャンパス一般公開 .....	9
3.5 展示及びイベント企画 .....	10
4. 資料の収集 .....	16
4.1 学習用図書の整備 .....	16
4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用 .....	16
4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備 .....	16
4.4 大型コレクション .....	16
5. 資料の管理 .....	18
5.1 目録データの遡及入力事業 .....	18
5.2 自動書庫 .....	18

5.3	図書資産の実査 .....	18
5.4	アジア研究図書館の整備.....	19
6.	業務管理 .....	20
6.1	職員研修.....	20
6.2	学生協働.....	20
6.3	社会連携・地域貢献 .....	21
6.4	教員著作物可視化事業との連携 .....	22
6.5	学内他部署との連携 .....	23
6.6	附属図書館学術情報システムのリプレイス.....	23
6.7	規則改正等 .....	24
7.	附属図書館会議.....	25
8.	全図書館・室統計.....	26
8.1	職員数、蔵書数、利用件数.....	26
8.2	経年変化.....	27
9.	付録 新型コロナウイルス感染症対策記録.....	29

# 1. 令和3年度の特記事項

## 1.1 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策への対応

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況は続いており、国から東京都に対しては、令和3年4月25日（日）～6月20日（日）、7月12日（月）～9月30日（木）に緊急事態宣言が発出され、4月12日（月）～24日（土）、6月21日（月）～7月11日（日）、令和4年1月21日（金）～3月21日（月）にはまん延防止等重点措置が適用された。

また、千葉県に対しては、令和3年8月2日（月）～9月30日（木）に緊急事態宣言が発出され、柏市には4月20日（火）～6月20日（日）、7月12日（月）～8月1日（日）、令和4年1月21日（金）～3月21日（月）にまん延防止等重点措置が適用された。

東京大学では、「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」（以下、「活動制限指針」という。）を作成し、感染拡大防止対策を実施しながら、研究・教育活動を継続してきた。附属図書館も、活動制限指針レベルの変更に对应しつつ、随時サービス内容等の見直しを行いながら業務を遂行した。

### (1) 総合図書館

令和3年度当初は前年度からの対応を継続し、平日の開館時刻を8時30分から9時に繰り下げた上で、ほぼ通常開館時のサービスを行い、学外者の利用も予約制により実施した。その後、活動制限指針が4月27日（火）にレベル準1（6月21日更新以降のレベルBに相当）に引き上げられ、6月21日（月）にはレベルAに引き下げられたことに合わせて、閉館時刻の変更、学外者の予約制による利用の停止・再開を行った。7月12日（月）には再び活動制限指針がレベルBに引き上げられたが、試験期間中であったため学内者サービスの縮小は行わず、多くの学部等で試験が終了した8月2日（月）から、レベルB対応に変更した。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まって1年以上が経過し、様々な研究成果に基づき感染症対策の基準が変化してきたこと、秋学期以降に学習・研究活動の活発化が予想されたことなどから、8月中に「「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に応じた総合図書館サービス」（以下、「BCP」という。）の見直しを行った。その結果、開館時刻は9時とし、学外者利用や施設利用方法等には活動制限指針レベルに応じた制限を残すものの、レベルS～Cまでは通常開館時の開館時間・サービスを概ね維持することとした。9月1日（水）からは新BCPに基づくレベルB対応を開始し、学習・研究活動の本格的な再開に備えた。

その後も、活動制限指針レベルは感染状況に応じてたびたび変更されたが、BCPに従って対応を行った（詳細は、「9. 付録 新型コロナウイルス感染症対策記録」を参照のこと）。

### (2) 駒場図書館

令和3年度、駒場図書館は開館時間を平日10時～20時、土日祝10時～19時としてスタートした。7月の試験期間中は利用状況に合わせて一時的に平日開館時刻を9時30分に繰り上げる柔軟な対応を行った。10月4日（月）以降は、短縮を緩和して平日の開館時間を延長し、9時～21時に変更した。

学外者の入館制限緩和については、昨年度末に入館可とした名誉教授と東大駒場友の会会員に続けて令和4年1月4日（火）から元教員と館長許可利用者の入館を再開した。

閲覧席およびメディアパーク ECCS 端末用座席の間引きを昨年度より継続し、着席可能な閲覧席数を年度当初は1/3、10月4日（月）以降は1/2に緩和した。メディアパークでのオンライン授業の受講（静粛限定）を可とする運用について10月4日（月）から令和4年3月31日（木）まで試行した。また、令和2年3月26日（木）から利用不可としていた1階ラウンジを、10月4日（月）以降閲覧スペースとして開放した（食事不可は維持）。

施設面では、東大駒場友の会より寄付された消毒液ディスペンサー3台を入退館ゲート付近に追加設置し、入館時・退館時の手指消毒の徹底を促した。グループ学習室は令和4年度の利用再開に向けて空気循環式紫外線除菌装置と飛沫防止パーティションの設置、抗菌・抗ウイルス剤の塗布を行った。1階ラウンジの飲食コーナーとウォータークーラーは令和3年度も利用停止を継続した。

カウンターでの対面接触を減らすため、自動貸出機（計2台）を更新し（内1台は東大駒場友の会寄付による）セルフ貸出を推奨、および返却箱設置とブックポスト24時間開放も継続して行った。また、昨年度に引き続き来館困難な学位論文執筆者を対象に図書及び複写物の郵送サービスを実施した（12月13日（月）以降は対象者を拡大し、令和4年3月31日（木）まで試行）。

### (3) 柏図書館

柏図書館では、開館時間は令和2年度中に通常に復していた（令和2年7月14日（火）より平日9時から21時、土曜10時から17時）が、学外者の入館制限を令和2年度に引き続き実施した。ただし、入館証や柏図書館友の会会員証をもつ学外者については、柏図書館入館届を提出のうえで、利用を継続した。入館時のマスク着用必須、消毒用アルコール設置、座席数の間引き、ナレッジワークスタジオの利用停止、職員による館内消毒といった感染防止対策を継続して実施した。

## 1.2 学習・閲覧環境の充実とサービス改善の取り組み

### (1) 総合図書館

#### プロジェクトボックス・防音ブースのオープン

本館改修工事により新たに設置された施設として、グループ学習に利用できるプロジェクトボックス（8室）、語学やプレゼンテーション等の発声練習が可能な防音ブース（4室）、そして講習会や授業を行うための機器等を備えたセミナールーム（3室）がある。令和2年11月のグランドオープン時より、コロナ禍への対応のため、長らくプロジェクトボックス及び防音ブースは閉鎖、セミナールームは間引きに伴う座席数不足を補うべく閲覧席として開放していたが、令和3年11月1日（月）に、プロジェクトボックス及び防音ブースをオープンさせるとともに、授業を目的としたセミナールーム利用の予約受付を開始した。

これらの施設の提供開始にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策への対応に最善の注意を払った。プロジェクトボックス及び防音ブースの利用時間は1日2時間までとし、特に、

複数名で利用するプロジェクトボックスの定員は、既定の半数以下に制限することとした。加えて、各室に二酸化炭素濃度測定器を、部屋付近に手指消毒用と物品消毒用のアルコールを設置したほか、利用終了後は換気のため 2 時間の利用停止時間を設ける、二酸化炭素濃度測定器数値確認等のため利用終了時に任意でアンケート回答を募る等、様々な感染症対策を実施した。

### 図書配送サービスの拡大

令和 3 年 1 月 18 日（月）から 3 月 31 日（水）までコロナ禍対応として試行した、本郷キャンパス内図書館・室間の図書配送および学内他図書館・室との図書配送サービスについて、利用者に好評であったことから 8 月 31 日（火）まで延長した。その後、試行の結果をふまえて学内合意が得られたため、恒常サービスとして 9 月 1 日（水）以降も継続することとなった。図書配送サービスの実施に伴い、本郷キャンパス内の図書配送量が増加したことから、配送業者がキャンパス内を効率よく巡回できるように図書館・室での受取手順等の簡素化を学内で検討し、12 月 15 日（水）からの試行を経て令和 4 年 3 月 28 日（月）から本運用を開始した。

## (2) 駒場図書館

### 学習・閲覧環境の充実に向けた取り組み

1 階ラウンジに机・椅子・延長コード等を配備し、飲食コーナーを閲覧スペースに変更して 10 月 4 日（月）より利用者に開放した。

12 月にマイクロリーダーを更新し、1 階特別閲覧席での閲覧サービスを開始した。あわせて学内者は持込みマイクロ資料を閲覧できるよう運用方針を変更し、利便性を向上させた。

令和 4 年 3 月、通常のサービスを維持しつつ館内照明の LED 化工事を実施した。

### 教員・学生に対するサービス改善

令和 3 年 2 月 15 日（月）から総合図書館、柏図書館で実施していた拠点館取り寄せサービス（ホームライブラリに加え、拠点図書館でも学内他図書館・室から取り寄せた図書を受け取れるサービス）に 8 月 10 日（火）から参加し、駒場図書館をホームライブラリとしない利用者の利便性が向上した。11 月 1 日（月）からは他キャンパスの図書館・室のみでなく同一キャンパス内の図書館・室の資料を返却可能とするサービス（どこでも返却）を開始し、学内の図書館・室で借りた資料であればどの図書館・室でも、カウンター／ブックポストでの返却が可能となった（研究室等の一部例外を除く）。

12 月 13 日（月）～令和 4 年 3 月 31 日（木）まで、以下の 2 点について試行した。

- ① コロナ禍の緊急対応として実施していた「来館困難な学位論文執筆者に対する図書館資料等郵送サービス」について、サービスの恒常化を念頭におき、来館困難な理由を限定せず、対象者を学位論文執筆者から本学在籍者、名誉教授、館長許可利用者に拡充した。
- ② 平日日中に来館できない社会人学生等の利便性に配慮し、文献複写等料金支払を銀行振込や現金書留でも対応できるよう整備した。

## (3) 柏図書館

### 図書配送サービスの拡大

コロナ禍による建物への入構制限のためキャンパス内の図書室に利用者がアクセスしにくくなったこと、本郷キャンパスでは同一キャンパス内での取り寄せ・返却の配送サービスが開始さ

れたことを受け、柏キャンパス内でも同様のサービスを実施できるよう検討を行った。次年度令和4年4月から6月の期間に、試行的に柏キャンパス内での配送を実施することとした。

### 1.3 電子リソースへのアクセス環境改善

本学が契約する電子リソース（電子ジャーナル・電子ブック・データベース）について、教職員・学生がより利用しやすくなるようアクセス環境の改善を行った。これは令和3年8月にリリースを行った EZproxy、新東京大学 OPAC、Literacy サイトの3つの新サービスを、既存の TREE、E-journal & E-book Portal、UTokyo Article Link と組み合わせることにより、総体として電子リソースへの望ましいナビゲーションを実現したものである。

EZproxy は学外から本学が契約する電子リソースにアクセスするためのサービスである。旧来、GACoS サイト（後述）や E-journal & E-book Portal などを利用して学外から電子リソースにアクセスする際、教職員は認証 GW サービス、学生は SSL-VPN Gateway サービスを使っていたが、EZproxy はその後継となる。EZproxy は電子リソースの利用に特化したサービスであることから、電子リソースアクセス時の画面崩れなどの不具合を低減できた。また、これまでと異なり職位に応じて利用可能なタイトルを設定できることから、サービス対象者をより広げることができた。

新東京大学 OPAC は、前システムの OPAC のアップデート版であるが、従来までの紙媒体の図書・雑誌タイトルに加え、新たに本学が契約する電子リソースのタイトルも検索できるようになった。東京大学 OPAC は多くの教職員・学生に利用されているため、電子リソースの発見可能性が高まることが期待される。また、EZproxy と組み合わせて利用することを考慮し、学内からと学外からのそれぞれのアクセスに応じた、電子リソースへの適切なアクセスリンクを提供している。

Literacy サイトは、本学の学術情報リテラシーのためのウェブサイトである。旧来のサイトである GACoS 掲載の学術情報リテラシーの情報について、その内容を大幅に刷新し、情報量を増量して充実させた。さらに附属図書館ウェブサイト内に移して構築を行うことで同サイト内にあったデータベース一覧とシームレスに往来することが可能になった。データベース一覧においても、EZproxy による学外からのアクセスを可能にするなどの各種改修を行っている。

## 2. 研究成果の発信、資料の電子化

### 2.1 東京大学学術機関リポジトリ (UTokyo Repository)

令和3年度は全体で3,192件のコンテンツ追加登録を行い、これにより総コンテンツ数が47,742件になった。追加登録したコンテンツは令和2年度と比較すると約3倍にもなる。登録コンテンツの内訳は、紀要・博士論文が中心である。紀要は、105誌からなる29,863件の論文を公開しており、本学の研究成果の発信に貢献している。主として機関リポジトリを公開プラットフォームとして利用している紀要の掲載論文及び、本文または要約を公開している博士論文に対しDOI付与を行っている。

令和4年3月に「東京大学学術機関リポジトリ運用指針」を制定した。それに合わせて「東京大学学術機関リポジトリへの提供論文利用許諾要件」の内容を見直して改正を行い、名称も「東京大学学術機関リポジトリ登録要件」に変更した。

### 2.2 東京大学デジタルアーカイブズ構築事業

平成29年度からスタートした東京大学デジタルアーカイブズ構築事業は、令和3年度も附属図書館、文書館、総合研究博物館、情報基盤センターの各長などからなる「東京大学学術資産等アーカイブズ委員会」を中心に実施され、公募により選定された13事業の取り組みが着実に進められた。

令和元年6月に公開した、学内の様々な部局がデジタル化し公開しているコレクションを横断的に検索できる「東京大学学術資産等アーカイブズポータル」では、令和3年度に新たに16のコレクションが追加され、検索可能件数は合計192,118件となった。

東京大学『学内広報』に掲載している関連コラム「デジタル万華鏡 東大の多様な「学術資産」を再確認しよう」については、令和3年7月から連携するジャパンサーチのギャラリー機能を活用し、電子展示の一環としてウェブ版を公開している。

また、デジタルアーカイブズ構築事業の主な対象の一つである紙資料の保存に注目した、学術資産アーカイブ化推進室主催のオンラインセミナー「紙資料の保存管理の実際」を令和4年2月10日(木)に開催し、学内外から460名の参加者があった。

### 2.3 国文学研究資料館「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」による資料電子化作業

本学では、国文学研究資料館(以下、「国文研」という。)が実施する標記事業の拠点大学として、継続的に古典籍の電子化を行っている。令和3年度は、総合図書館が所蔵する「田中芳英文庫」「鷗外文庫」「鶚軒文庫」から合計733点の電子化を実施したほか、工学・情報理工学図書館所蔵の1点、理学図書館所蔵の111点、東洋文化研究所図書室所蔵の2点についても電子化を行った。加えて、令和2年度に続きマイクロフィッシュ版「連歌俳諧書集成」(総合図書館所蔵洒竹・竹冷・知十文庫)「補遺の部」の電子化を実施し、これにより「連歌俳諧書集成」の

電子化が完了した。この他、令和2年度に電子化を行った古典籍及び「連歌俳諧書集成」について、順次、国文研が構築・運用する「新日本古典籍総合データベース」からの公開が行われた。

## 3. 利用者サービス、ガイダンス、広報

### 3.1 障害のある利用者（本学構成員）への資料電子化サービス

総合図書館、駒場図書館、柏図書館において、バリアフリー支援室の協力の下、視覚障害等により紙資料の閲読が困難な利用者を対象とした資料電子化サービスを実施している。令和3年度の電子化実施件数は、総合図書館36件（うちPDF形式27件、テキストデータ形式9件）、駒場図書館9件（全てテキストデータ形式）であった（柏図書館は実績なし）。

また、大学院学生の高い専門性を学内業務に活かして対価を支払うオンキャンパスジョブを活用した修学支援事業に「障害のある学生への就学支援業務及び障害のある教職員への就業支援業務」として応募し、採択を受けた。当事業では、令和2年度に続き駒場図書館を主担当として、利用者から要望のあった資料3点のテキストデータ作成を行った。

### 3.2 図書館ガイダンス、講習会等

#### (1) 総合図書館

例年情報システム部情報基盤課学術情報チーム学術情報リテラシー担当（以下、「学術情報リテラシー担当」という。）と協同で実施していたオリエンテーション（図書館ツアーと資料検索ガイダンス）は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止し、セルフツアーを開催した。

期間	内容	参加者数
令和3年 3月26日（金）～5月26日（水）	「総合図書館 セルフツアー」 （日本語・英語）	270名
令和3年 10月1日（金）～10月27日（水）	「総合図書館 セルフツアー」 （日本語・英語）	118名

#### (2) 駒場図書館

コロナ禍により実施が困難となった対面イベント・講習会に代わるオンラインコンテンツ・館内イベント・掲示等の充実を図った。新入生や新任教職員に役立つ情報を一覧できるようウェブサイト「図書館活用ガイド」を新設し、各種YouTube動画（下表掲載）や、図書館活用法・利用マナーに関する各種リーフレット、レポート・論文執筆に役立つ情報等を新規に提供した。

学生自身がマップを見ながら館内を巡る「セルフツアー」について、令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う臨時閉館により中止となったが、令和3年度は実施した。

また、以下2件の授業支援を実施した。

##### ① 初年次ゼミナール

教養学部必修授業の「初年次ゼミナール文科総合コース」及び「初年次ゼミナール理科」において前年度に引き続き支援を行った。駒場図書館情報サービス担当及び学術情報リテラ

シー担当が連携して「文献検索ワークショップ」のオンデマンド動画及びテキスト教材を制作し提供した。オンデマンド動画はYouTubeで学内限定公開し、受講生以外の学内者も視聴可とした（動画提供元は学術情報リテラシー担当）。

② 全学自由研究ゼミナール「こまとちゃんゼミナール」

平成29年度から開講の全学自由研究ゼミナール「図書館の学び・活用・提案」は、令和3年度より「こまとちゃんゼミナール～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル」と名称を変えて開講され、情報検索実習、レファレンスサービスに関する講義、駒場図書館バックヤードツアー、総合図書館見学ツアー、展示コーナーでの成果物展示など年間を通して授業支援を行った。

期間	内容	参加者数 又は視聴回数
4月13日(火)～ 8月10日(火)	初年次ゼミナール文科総合コース必修「文献検索ワークショップ」(YouTube 9本/日本語/学内限定公開・受講生以外の学内者も視聴可)	6,598回
通年	情報検索 Web セミナー「文献検索のコツ」Part1-6 (YouTube/日本語 4、8月改訂・英語 11月公開)	3,806回
4月1日(木)～ 5月31日(月)、 10月14日(木)	駒場図書館セルフツアー	100名
通年	駒場図書館バーチャルツアー (YouTube/日本語・英語/学内者向け利用案内)	821回
通年	3分 de こまとツアー (YouTube/日本語 8月公開 /沿革、施設、コレクション紹介)	245回
通年	情報検索チャレンジ (Web/館内)	199名
春季・秋季	授業支援 計 11回	189名
4月5日(月)	PEAK 後期課程進学予定者向けガイダンス (Zoom)	38名
4月、9月	留学生ガイダンス (バーチャルツアー・資料提供のみ)	—
9月	教養学部進学内定者ガイダンス (資料提供のみ)	—

(3) 柏図書館

新入生ガイダンス(4月～7月、9月～11月)を対面とZoomで実施した。留学生ガイダンスは、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止となり、資料配付のみを行った。また、データベース講習会については中止し、代替措置として学術情報リテラシー担当がZoomで開

催したオンラインセミナーを柏キャンパス内に広報した。このほか、柏図書館セルフツアーを春季・秋季に開催した。

期間	内容	参加者数
春季・秋季	新領域創成科学研究科 新入生ガイダンス 計4回	30名(対面)
春季・秋季	柏図書館セルフツアー	9名

### 3.3 各館の広報

平成31年3月13日(水)に開設した総合図書館Twitterアカウントから、令和3年度は400回弱のツイートを行った。コロナ禍における東京大学の活動制限指針レベル変更に伴う図書館サービス変更の案内のほか、展示図書やデジタル化資料の紹介、イベントの案内、台風や積雪による開館時間変更の案内等に活用した。

総合図書館ウェブサイトでは、令和2年度に引き続き、大学の入構制限に伴うサービス変更の案内ページ、郵送貸出申込ページ、学外者利用予約ページ等の運用を行った。

また、総合図書館リーフレット「探究は、終わらない」を、総合図書館改修工事完了後の新施設利用開始に合わせて改訂した。改訂後のリーフレットは学生向けオリエンテーション等での配付を想定して各部局に送付し、改修工事完了後の新たな設備・サービスの広報に活用した。

駒場図書館では、新入生や新任教職員に役立つ情報を一覧できるよう駒場図書館ウェブサイトに「図書館活用ガイド」のページを新設した。また、公式Twitterアカウントから新入生に向けて図書館活用法とマナーを紹介する連続ツイートを4月と10月に実施した。図書館システムのリプレースの際は、関連する利用案内や動画「情報検索Webセミナー」を更新し、駒場図書館ウェブサイトのニュースやTwitterで広報した。

柏図書館では、月刊のメールニュース「柏図書館からのお知らせ」(和・英両方)を年12回発行したほか、臨時便を3回発行し、柏キャンパス内の教職員・学生向けに利用案内やイベントのお知らせを行った。

### 3.4 キャンパス一般公開

令和3年度も、「高校生のための東京大学オープンキャンパス」、卒業生を対象にした「東京大学ホームカミングデイ」や「東京大学柏キャンパス一般公開」は、いずれも新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン形式での実施となった。

#### (1) 総合図書館

オープンキャンパスは、7月10日(土)～11日(日)にオンライン形式で開催された。総合図書館はオンライン館内見学会を企画して参加し、展示・イベントワーキンググループで総合図書館の紹介スライドショー『ようこそ総合図書館へ・2021』を作成し、東大TVを介して公開した。

ホームカミングデーもオンライン形式での実施となり、10月16日（土）～24日（日）の間、オンデマンドでの動画配信の形で参加し、展示・イベントワーキンググループで総合図書館の紹介スライドショー『総合図書館バーチャルツアー・2021』を作成し公開した。

## (2) 駒場図書館

オンライン形式で実施されたホームカミングデーには、駒場図書館の沿革・施設・コレクションを紹介する動画『3分 de こまとツアー』を作成し公開した。

## (3) 柏図書館

柏キャンパス一般公開は、10月22日（金）～29日（金）にオンラインで開催された。柏図書館が実施したイベントは以下のとおり。

期間	内容
令和3年 10月22日（金） ～29日（金） 柏図書館テーマ 「知の蓄積を覗いて みよう」	東大生が推薦！この秋読みたいこの1冊 柏キャンパスの大学院学生が、おすすめの本をオンライン訪問者に紹介 なお、館内には実際の展示も行い、一般公開後も継続した
	図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜【文書館共催】 7月7日（水）のサイエンスカフェの動画を公開（ゲスト：文書館 秋山淳子助教） 館内企画展示と連動
	柏図書館自動書庫バーチャルツアー 自動書庫内部を動画で見学できるバーチャルツアー

## 3.5 展示及びイベント企画

### (1) 総合図書館

#### 展示

令和3年度のイベントは、新型コロナウイルス感染症の感染状況に鑑みつつ、展示を中心に実施した。

東京大学の知的資産を可視化する象徴的空間である3階ホールのコンセプトを「新しい知と出会い、つながり、対話する場」と位置づけ、昨年度開始した常設コーナー「UTokyo Faculty Works」（東京大学の教員著作を展示）、「Shelf of UTokyo Press」（東京大学出版会とのコラボ展示）、「Shelf of UTokyo COOP」（東京大学生協同組合とのコラボ展示）を引き続き設置するとともに、西側壁面書架で新しい展示企画「東大研究者の本棚」および「Shelf of Wonder」を開始した。

「東大研究者の本棚」は、東京大学に所属する研究者の知的な営みを「本」という切り口でたどるシリーズ企画であり、第1回目は坂井修一附属図書館長の「科学するうたごころ 歌作る

科学のこころ ～本でめぐる坂井修一の世界～」を実施した。坂井館長が感銘を受けた本や人生において影響を受けた本のうち、約 40 点を複数のカテゴリーに分けてその本をめぐる坂井館長の言葉とあわせて紹介するとともに、坂井館長の著書である歌集など 26 点も展示した。また、関連イベントとして 12 月 17 日（金）には同名のブックトークをオンライン方式で開催し、展示図書についてさらに掘り下げた内容が語られた。このイベントには約 140 名の参加があり、質疑応答も活発に行われた。

「Shelf of Wonder」は、学内部局・研究機関と連携し、その研究成果等を発信・紹介するシリーズ展示で、学生・教員に知的好奇心を刺激する多様な（ときには専門外の）知の営みに出会う機会を提供し、新たな知の創出を促す試みである。シリーズ第 1 回では総合研究博物館と連携し、総合図書館が所蔵する、総合研究博物館所属研究者の著書や関連分野図書の展示とともに、総合研究博物館が作成するオリジナリティに富むポスターの展示、広報誌の配布を行い、その幅広い領域にわたる活動を紹介した。また、本企画での連携を機に寄贈を受けた総合研究博物館の刊行物もあわせて展示した。

オープンエリアでは、学生からの申し出を受けて、日本建築学会主催の建築文化週間学生グランプリ 2021 最優秀作品の模型展示を行った。この展示をテストケースとして、「オープンエリア展示利用要領」を策定した（施行日：令和 4 年 4 月 1 日）。

なお、東京大学の活動制限指針レベルの引き上げに伴い、令和 3 年 4 月 29 日（木・祝）から 6 月 20 日（日）、7 月 12 日（月）から 9 月 30 日（木）まで展示スペース及びオープンエリアを、令和 4 年 1 月 24 日（月）から 3 月 27 日（日）まで展示スペースを閉室とした。

期間	場所	内容
令和 2 年 11 月 27 日（金） ～開催中	展示スペース	総合図書館の 130 年を振り返る 1 ～創立から震災復興まで
令和 3 年 12 月 3 日（金） ～令和 4 年 5 月 1 日（日）	3 階ホール	東大研究者の本棚 第 1 回 科学するうたごころ 歌作る科学のこころ ～本でめぐる坂井修一の世界～
令和 3 年 12 月 10 日（金） ～令和 4 年 6 月 10 日（金）	3 階ホール	Shelf of Wonder 第 1 回 総合研究博物館
令和 2 年 11 月 27 日（金） ～令和 3 年 12 月 19 日（日）	オープンエリア	新図書館計画の 10 年
令和 4 年 2 月 1 日（火） ～2 月 28 日（月）	オープンエリア	創作茶席「精彩」模型の展示（大学院新領域創成科学研究科学生）



### 講演会・セミナー等

新型コロナウイルス感染症感染防止のため、講演会・イベントの多くはオンライン形式での開催となった。

期間	内容	参加者数
令和3年 9月3日(金)	附属図書館アジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門 協働型アジア研究「オリент世界を対象とした研究資源のデジタル化とその利活用に関する研究」主催 第3回協働型アジア研究オンラインセミナー「古代エジプト資料の記録、分析、利活用を考える」(オンライン開催)	177名
12月10日(金)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第17回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	77名
12月17日(金)	東京大学総合図書館ブックトーク「科学するうたごころ 歌作る科学のこころ ~本でめぐる坂井修一の世界~」 (オンライン開催)	141名
令和4年 2月10日(木)	第5回東京大学学術資産アーカイブ化推進室主催セミナー 「紙資料の保存管理の実際」(オンライン開催)	460名
3月8日(火)	大学総合教育研究センター、附属図書館主催 第18回ミニレクチャプログラム(オンライン開催)	98名

## (2) 駒場図書館

### 展示

期間	内容
令和3年4月1日(木)～ 5月31日(月)	こまとジャック! (駒場図書館 1,3,4 階) ※新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」の一環
令和3年4月1日(木)～ 5月31日(月)	みにつけよう! アカデミックスキルズ (駒場図書館 1 階) ※新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」の一環
令和3年7月15日(木)～ 8月5日(木)	こまとちゃんゼミナール ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル成果発表展示 (駒場図書館 1 階)
令和3年7月～令和4年 3月	駒場生が東大の e-book をレビューしてみた! ～e-book レビュー展示 ～ (駒場図書館 1 階)
令和4年1月13日(木)～ 1月27日(木)	こまとちゃんゼミナール ～駒場図書館で学ぶ大学生の為の情報検索・収集・発信スキル成果発表展示 (駒場図書館 1 階)

**e-book 展示**  
ジュニア・スタッフが書いてくれた  
e-book のレビューを展示しています

**アクセス方法**

**e-book とは?**

- 東大で契約しているものが読めます
- U-Tokyo WiFi からアクセスしてね
- 学外からでもアクセスできます

Step1: アクセス  
E-journal & E-book Portal

Step2: 検索

Step3: 本文

### イベント等

期間	内容
令和3年4月1日(木)～ 5月31日(月)	新入生歓迎企画「Lib <sup>3</sup> (リブキューブ)」



### (3) 柏図書館

展示

期間	内容
令和2年3月～令和4年3月	第17回企画展示「中学生、学会をつくる」(令和2年度末から継続)
令和3年4月～令和4年3月	第20回企画展示「図面と資料から見る東京大学キャンパスの系譜(続)」(9月までの予定を延長)


**東京大学** Kashiwa Library events 2020  
 東京大学柏図書館イベントシリーズ2020  
 第17回 柏図書館企画展示

**中学生、学会をつくる**  
 日本博物学会規則  
 総則  
 本會ハ日本博物學會ニ稱  
 本會ハ博物學ヲ以テシ  
 本會ハ時ニ會員ヲ招キ  
 本會ハ月刊雜誌ヲ出ス  
 本會ハ時期ヲ定メテ  
 談話會ヲ開キ陳列會ヲ  
 本會ハ庶務一名會計一  
 及書記ヲ置ク  
 本會ハ毎月五日迄ニ

～1900年の手書き学会誌「博物之友」初公開～  
 明治33(1900)年、東京府第一中学校(翌年、東京府立第一中学校に改称)の生徒だった14歳の華河三喜(東京帝大名誉教授・附属図書館長)が仲間たちと日本博物学会を組織し、回覧雑誌「博物之友」を手書きで発行しました。このたび東京大学柏図書館に手書き版「博物之友」全8号が寄贈されたことを記念し、複製の一部を展示します。

2020年3月17日(火)～2022年3月(予定)  
 休館日を除く平日9:00～21:00 (8,9,3月は17:00まで)  
 東京大学柏図書館 2階 閲覧室

主催: 東京大学柏図書館  
 協力: 東京都立日比谷高等学校創立百周年記念資料館  
 問い合わせ Tel: 04-7136-4224 E-mail: kashiwa@lib.u-tokyo.ac.jp  
 HP: https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/kashiwa





**東京大学** 第20回 柏図書館企画展示

**図面と資料から見る  
東京大学キャンパスの系譜(続)**

期間: 2021年4月5日～9月30日  
 企画: 東京大学文書館




 東京大学文書館  
 THE UNIVERSITY OF TOKYO LIBRARY



## 4. 資料の収集

### 4.1 学習用図書整備

平成20年度から恒常的に措置されている学習基盤経費により、今年度は総合・駒場・柏図書館で合計11,000冊（総合：5,326冊、駒場：4,381冊、柏：1,293冊）の学習用図書を購入した。図書の選定に際しては、教員からの推薦、図書館職員による選定のほか、学生自身の観点を生かすため、ジュニア・スタッフによる選書を実施している。また、留学生向けの資料購入も別途行っており、総合図書館では24冊、柏図書館では和書を中心に50冊の図書を購入した。このほか、駒場図書館では平成22年度から継続して東大駒場友の会から学生向けの図書の寄贈を受けており、今年度は355冊が寄贈された。

また、シラバス掲載タイトルの購入など、和書電子書籍の整備を積極的に推し進め、5,851タイトルが利用可能となっている。

### 4.2 全学資料購入集中処理システムの着実な運用

経費節減と事務の効率化を図ることを目的として、図書資料を全学的に共同購入するシステムを平成16年度から運用している。第1ステージ（図書館・室を通して購入する図書資料）と第2ステージ（教員等が各部局の会計担当を通して直接購入する図書資料）をあわせた令和3年度の取扱総額は約2億5,500万円であり、書店への支払いの集中化・一元化により約1,372万円の図書購入費を節約することができた。

### 4.3 全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備

平成18年度に学内施策として合意された「全学共通経費による基盤的学術雑誌等の整備」の制度は、令和3年度から第4期に入った（令和7年度まで）。

この制度に基づき、令和3年度は国内雑誌・外国雑誌（冊子）3,290タイトル、電子ジャーナル12,946タイトル、データベース70点を契約し、学習・教育研究活動に必要な学術情報を安定的に供給した。これらの契約にかかる事務処理は総合図書館が一括して執り行い、学内の契約・支払い業務の効率化も同時に図っている。

### 4.4 大型コレクション

全学共通経費の大型コレクションの収集対象として、以下の資料を選定した。

- (1) East India Company, Module 1-4  
（大英図書館所蔵イギリス東インド会社文書：モジュール1-4）
- (2) Records of the Maritime Customs Service of China 1854-1949  
（中国第二歴史档案館所蔵 中国海関資料）
- (3) The Making of Modern Law（外国法文献・一次資料コレクション）  
・ Foreign, Comparative, and International Law, 1600-1926 (MOML6)

- ・ Foreign Primary Sources, Part I, 1600-1970 (MOML7)
- ・ Foreign Primary Sources, Part II, 1600-1970 (MOML8)

また令和2年度に次点として選定された以下の資料を令和3年度に導入した。

- ・ Bibliotheca Teubneriana Latina (BTL) und Thesaurus linguae Latinae (TLL) Online  
(トイブナー古典叢書：ラテン語編 (BTL) & ラテン語シソーラス (TLL))

## 5. 資料の管理

### 5.1 目録データの遡及入力事業

附属図書館では、オンライン蔵書検索システム（OPAC）が導入される以前の紙の目録カードで整理されていた全学の図書について、遡及的に目録データを入力することによって、オンラインで検索できるようにする事業を10年計画で進めている。

平成27年度から開始した第3期全学遡及入力計画では、令和元年度までの前半5年間は、国文学研究資料館が中心となって実施する「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に伴う「新日本古典籍総合データベース」の構築や東京大学新図書館計画を踏まえて総合図書館所蔵資料を優先して行った。今年度は、令和元年度に行った第3期全学遡及入力計画の後半5年間への参加希望調査に基づき、法学、工学、理学、農学、駒場図書館、数理科学、東文研所蔵の和古書・漢籍・和書・洋書等の入力を実施した。合計で当初約30,000冊の目録作成を目標とし、約32,700冊（うち総合図書館は約14,400冊）のデータ入力を達成した。

### 5.2 自動書庫

#### (1) 人文社会科学系学術雑誌の集中化（総合図書館）

令和3年度は、自動書庫設置の目的のひとつである、部局が所蔵する人文社会科学系製本雑誌の移管を実施した。法学、文学、教育学、情報学環、東文研の5図書室から、283タイトル、5,741冊を移管し、自動書庫に収納した。

#### (2) 自然科学系学術雑誌の集中化（柏図書館）

令和3年度は、総合図書館、医学、工・情報理工（4専攻）、理学、医科研、物性研、大海研の10図書室・室から、自然科学系学術雑誌のバックナンバー5,043冊を移管し自動書庫に収納した。現在、自動書庫には約40万冊が収納されており、PDF閲覧サービスを通じて全学の利用に供されている。

### 5.3 図書資産の実査

#### (1) 総合図書館

総合図書館の図書資産実査は、10年で全資料を一巡する計画で順次実施している。令和3年度は第2期計画の7年目にあたり、保存書庫内に配架されている洋図書（分類E・F、大型洋書（分類A～E））と、令和元年度実査時未確認資料37冊を実査の対象とした。また近年、開架図書（第2期第1次（平成27年度）～第3次（平成29年度）に実査作業済）の所在不明本が多くなっていることから、試行として開架図書の一部（分類0～210.59、岩波文庫）について再度実査作業を行った。作業の結果、実査対象69,075冊のうち不明資料は37冊であった。また、令和2年度の不明資料20冊については11冊の所在を確認できたものの、残る9冊については依然不明であったため、令和3年度に再調査を行うこととした。

## (2) 駒場図書館

令和3年度は、保存書庫資料計24,622冊と不明資料80冊を対象として実施した。その結果、計27冊が不明であったため、令和4年度に再調査を行うこととした。

また、以前より不明であった資料212冊について現物調査を行った結果、146冊は依然として不明であったため、調査不十分、消耗品および過去に除却済の計68冊を除いた78冊を亡失資料として除籍手続きを行った。

## (3) 柏図書館

令和3年度は、分類記号が400から469までの開架図書17,118冊を対象に、12月に実査を実施した。その結果、13冊が不明であったため、令和4年度に再調査を行うこととした。また、令和2年度は調査対象全ての図書が確認できたため、令和3年度は前年度不明図書の再調査を行わなかった。

## 5.4 アジア研究図書館の整備

令和3年度は、令和2年度から継続して人文社会系研究科からの移管対象資料の搬入、移管処理、整理作業を実施するとともに、もともと自動書庫への入庫を予定していた蔵書の入庫作業を開始した。またアジア研究図書館研究開発部門とアジア研究図書館上廣倫理財団寄付研究部門の教員などからなるアジア研究図書館選書委員会を立ち上げ、購入図書の選定を行った。

令和3年度の資料受入冊数は、部局からの移管分が14,461冊、購入分が387冊、寄贈分が477冊で合計15,325冊であった。これにより3月末時点でアジア研究図書館の蔵書冊数は49,710冊（うち自動書庫入庫冊数は4,908冊、開架図書冊数は44,802冊）となった。

さらに令和4年度に向けて、アジア研究図書館資料の自動書庫への入庫を前提にした部局からの移管の準備として、移管希望調査を行った。

## 6. 業務管理

### 6.1 職員研修

新型コロナウイルス感染症の影響で集合型研修の実施が困難な時期が続いたが、感染状況が若干落ち着いたこともあり、12月23日（木）に4年ぶりの図書系初任者（若手職員）研修を対面で開催し、学内の図書館・室から16名の参加者を得た。

京都大学附属図書館、国立情報学研究所と主催する大学図書館職員短期研修については、初めての試みとしてオンライン形式で10月26日（火）～29日（金）に実施した。Zoom等のツールを利用することによりリモート参加も可能となり、全国の国公私立大学図書館から定員を上回る44名の参加者があった。

コロナ禍の下でオンライン開催による研修への受講機会が増えたこともあり、国立大学図書館協会会員館やオープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）の主催事業をはじめとする学内外の研修情報について附属図書館職員への周知を積極的に行った。

### 6.2 学生協働

#### (1) ジュニア・スタッフ

東京大学では、大学の様々な活動に学生が積極的に参画することを奨励するために、意欲ある学部学生を「ジュニア・スタッフ」に採用し奨励金を支給する制度を実施しており、附属図書館でも活用している。

総合図書館では、令和3年度前半はコロナ禍のためジュニア・スタッフの募集を見合わせていたが、感染状況が落ち着いてきたため11月から活動を開始した。学生から9名を採用し、返却図書の配架、書架整理、新着図書の装備、マイクロ資料の画像チェック、学生用図書の選書等の活動を行った。選書により購入した図書は、「東大生の本棚 2022 Spring」として令和4年2月18日（金）から5月31日（火）まで3階ホールに展示した。展示にあたっては、自分が選書した中で特におすすめする図書のPOPを各自作成したほか、展示のための装備や展示作業も行った。この展示に合わせて総合図書館ウェブサイト上にブクログ（仮想本棚サービス）を設置し、ブクログ上でも同内容の展示を実施した。

駒場図書館ではジュニア・スタッフ24名を採用し、学生用図書の現物選定、23点のe-bookレビュー作成、蔵書点検と狭隘化解消のための資料移動作業、マイクロ資料劣化調査、新入生への配布資料準備及び入学諸手続補助等の活動を行った。また、作成されたレビューを基に、e-bookレビュー展示を7回実施した。

柏図書館では、学生用図書の選書を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等から十分な活動が見込めず令和3年度は実施しなかった。

#### (2) オンキャンパスジョブ

令和3年度は、オンキャンパスジョブに3件応募し、いずれも採択を受け、以下のとおり4事業を実施することができた。またいずれの事業も、新型コロナウイルス感染症感染防止のた

め、可能な限り自宅あるいは研究室等で作業ができる環境を構築し、リモート方式を大いに活用しながら作業を進めることができた。

#### ① 障害のある構成員のための資料電子化業務

附属図書館では、著作権法第 37 条に則り、視覚障害等のある利用者への資料電子化サービスを行っている。このサービスはバリアフリー支援室のサポートスタッフの協力により行っているが、電子化対象資料には専門用語や外国語、数式、図表が多く含まれていることから、当該分野の専門知識を有する学生の協力も必要である。そこで令和 2 年度に続きオンキャンパスジョブ制度を活用して電子化を実施した。今年度も駒場図書館を中心に作業を進め、計 3 件のテキストデータを作成することができた。

#### ② デジタル化された総合図書館所蔵資料の利活用促進のためのデータ整備業務

総合図書館では重要文化財に指定されている「東京帝国大学五十年史料」を令和 3 年までにデジタル公開した。この資料群には一部個人のプライバシーに関わる情報が含まれているため、その可能性がある冊は非公開としているが、可能な限り公開範囲を広げることが課題となっている。そこで、個人のプライバシーに関わる記述箇所を特定するため、オンキャンパスジョブ制度を活用した。明治初期の手稿資料を読解できる大学院学生 5 名の参画によって、当初目標を達成することができた。

#### ③ アジア研究図書館におけるアジア特殊言語の蔵書整理

アジア研究図書館では、収集資料の中にアジアの諸言語で記述されているものが多く含まれるため、これらの整理のために、各言語や専門分野の知識を必要とする。そこで、専門知識を有する大学院学生の協力を得るべく、オンキャンパスジョブ制度を活用した。学生 7 名（博士課程 4 名、修士課程 3 名）の活動により、ユネスコ・アジア文化センターから寄贈された識字教育資料のうち、フィリピン、マレーシア、ベトナム、ラオス、インドネシア、バングラデシュ、インド、ネパール、パプア・ニューギニアの諸言語の整理を進めることができた。

また附属図書館では、オンライン蔵書検索システム（OPAC）で資料を検索できるようにするため目録データの遡及入力を行っているが、特にアジア地域の図書のうちオスマントルコ語・アラビア語の目録データ入力では専門知識等を有する学生の協力が求められるため、オンキャンパスジョブを活用した。その結果、大学院学生 2 名（修士課程 2 名）で資料 16 点の目録データを作成することができた。

柏図書館では、「オンキャンパスジョブを活用した修学支援事業」により 1 名の大学院学生を時間外カウンターに増員し、館内設備・機器の利用支援を強化した。

## 6.3 社会連携・地域貢献

### (1) 所蔵資料の出陳（総合図書館・駒場図書館）

附属図書館では、全国の美術館・博物館等が企画する展覧会への出陳依頼があった際に、所蔵資料の貸出（出陳）を行っている。令和 3 年度は、総合図書館では 4 機関へ 14 点、駒場図書館では 2 機関へ 3 点の資料を貸し出した。

## (2) 柏図書館友の会（柏図書館）

東京大学柏図書館友の会は、柏図書館の活動および事業への支援や、会員相互および柏図書館職員との交流の促進を図ることを目的として、平成 20 年度に発足した組織である。

令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、第 13 回総会（5 月）は前年度に引き続き書面により開催された。友の会と柏図書館が共催する「わくわくミニコンサート」については感染対策を徹底の上、令和 4 年 1 月 20 日（木）に開催し、11 組出演・62 名参加であった。また、理事会についても、2 月にメールで審議を行った。

令和 2 年度は入館制限が行われるなど従来どおりの活動ができなかったこと等から、令和 2 年度会員については令和 3 年度の会費を免除して自動継続にすることとしたが、友の会会員の入館は令和 2 年 10 月 19 日（月）以降可能となっており、令和 3 年度の新規会員も少しずつ増えていった。令和 4 年 3 月末の会員数は一般会員 212 名（うち令和 3 年度新規会員 18 名）である。

なお、令和 3 年 3 月より、接触を減らすことや現金の管理負担軽減等を目的に、クレジットカード等の利用による会費支払いのキャッシュレス化とウェブでの入会申込みを可能にしたが、令和 3 年度は本格的に運用が始まり順調に機能している。

## (3) 地域の大学図書館等との連携（柏図書館）

柏図書館は、柏市立図書館並びに柏市内 3 大学図書館と連携して、ビブリオバトルや企画展等を毎年実施していたが、令和 3 年度については前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止することとなった。なお、柏図書館独自の企画として、柏図書館を除く市内 3 大学図書館のポスターを作成し、学外者サービスの制限等が分かるよう閲覧室入口に掲示している。

## (4) 中学生職場体験の受入（柏図書館）

例年、柏市内の市立中学校からの依頼に基づき、中学生職場体験の受入を実施していたが、令和 3 年度については、前年度に引き続き中学校側からの依頼がなかったため実施しなかった。

## 6.4 教員著作物可視化事業との連携

平成 28 年度に開始された「教員著作物の可視化と国際発信」事業（研究推進部学術振興企画課）と連携し、東京大学教員の著作物を著者自らが紹介するサイト UTokyo BiblioPlaza に掲載される著作のうち、総合図書館、駒場図書館、柏図書館が未所蔵の図書を合計 103 タイトル購入し、各館に配架した。図書館からの提案により、同サイトの各著作の紹介ページには東京大学 OPAC の検索結果へのリンクが掲載されており、所蔵・貸出状況が容易に確認できる。また、対象図書の電子書籍 49 タイトルもあわせて購入し、学内ネットワークにより提供を行っている。

総合図書館では、「3.5 展示及びイベント企画」に記載した「東京大学の知的資産を可視化する象徴的空間」の整備の一環として、耐震改修工事完了後の令和 2 年 11 月から、学術振興企画課の協力を得て、UTokyo BiblioPlaza 掲載図書を中心に東京大学の教員著作を展示する「UTokyo Faculty Works」コーナーを 3 階ホールに設置している。令和 2 年度に引き続き、令和 3 年度も、新たに受け入れた教員著作を随時追加した。UTokyo BiblioPlaza ウェブサイトの

図書紹介ページや特集企画と連動して展示内容を定期的に更新しながら、表紙を見せる展示を中心に常時 700 冊程度を配置している。

駒場図書館では、令和元年度以降 1 階エントランス付近に設置した UTokyo BiblioPlaza コーナーに常に 200 冊程度の図書を配架し年 1 回入れ替えを行っている。令和 3 年度は令和 4 年 2 月に入れ替えを行い、223 冊を配架した。

## 6.5 学内他部署との連携

### (1) 総合図書館

総合図書館では、平成 27 年度から、障害者集中雇用プロジェクトチーム（施設部施設企画課、以下、「プロジェクトチーム」という。）の建物清掃班の協力の下、定期的な館内清掃等の作業を行っている。また平成 30 年度にプロジェクトチーム分室を図書館内に設け、業務支援班のコーディネーターとスタッフによる図書館業務専門のチームが常駐し、日常的に資料清掃や書架整理を実施している。

令和 3 年度も引き続き、建物清掃班が毎月休館日に本館の閲覧机及び館内 PC 約 70 台、別館ライブラリープラザの机・自動ドア等の清掃を行い、業務支援班の図書館分室チームは本館内開架書架の整理と書庫にある図書の清掃を毎日の業務として行いつつ、図書資産実査の補助作業も行った。今後も対象業務の多様化を図り、プロジェクトチームとの協働を深めていきたい。

### (2) 駒場図書館

駒場図書館では、平成 27 年度から障害者集中雇用プロジェクトチーム建物清掃班（駒場分室）による保存書庫の資料・書架清掃や、不定期に駒場図書館内の PC、閲覧机や開架書架の清掃を行っている。週 1 回、3～4 名のスタッフによる丁寧な作業によって、保存書庫や館内の環境は格段に改善された。このほか教養学部等事務部環境美化チームにも不定期に書架の清掃を依頼し、資料保存環境の向上につながっている。両チームの貢献度は極めて高く、今後も連携を継続していきたい。

### (3) 柏図書館

柏図書館では、平成 25 年度から柏地区共通事務センター環境整備チームに書架整理やラベル貼付、送付物封入作業など様々な図書業務を依頼している。令和 3 年度も引き続き、図書資産実査の補助作業・廃棄資料の処理作業・返却図書の書架への配架・清掃作業などを行った。環境整備チームによる業務は、柏図書館にとって強力な業務支援となっており、今後も継続して作業内容を相談しながら業務を依頼し、連携を深めたい。

## 6.6 附属図書館学術情報システムのリプレイス

附属図書館学術情報システム（東京大学 OPAC 及び附属図書館業務システムを含むパッケージシステム）のリプレイスを行った。これは、情報システム部情報基盤課学術情報チームを事務局として、仕様策定委員会、技術審査委員会、附属図書館システムリプレイス検討プロジェクトにより進められた。

前システムと同じベンダーが落札したことから、前システムのパッケージアップデート版を本学向けにカスタマイズして導入することになり、従来のノウハウを引き継ぐ形で運用が行われている。

## 6.7 規則改正等

附属図書館事務部は、令和3年4月1日付けで係制からチーム制に移行し、総務課の下に総務チーム（庶務・会計・管理の3担当）と企画渉外チーム、情報管理課の下に情報管理チーム（選書受入・資料管理・資料契約・目録情報の4担当）、情報サービス課の下に情報サービスチーム（利用者支援・調査支援・アジア研究図書館の3担当）と資料整備チーム、柏地区図書課の下に資料管理チーム（柏図書館・物性研究所図書室の2担当）と柏サービスチームが置かれることになった。

総合図書館では、利用申請時の押印を省略するため、「総合図書館所蔵資料特別利用取扱要項」を改正した（令和3年9月10日施行）。また、本館改修工事完了に伴い施設が整備されたことから、「総合図書館オープンエリアの展示利用に関する要領」の制定（令和4年4月1日施行）を行った。

駒場図書館では、「寄贈図書の取扱いについての内規」の改正および「東京大学駒場図書館及び東京大学大学院総合文化研究科図書館所蔵資料特別利用取扱要項」を新たに制定し、令和3年7月28日から施行した。

## 7. 附属図書館会議

開催日	会議名称
令和3年	
4月19日(月)	第450回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月13日(火)	令和3年度第1回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
7月20日(火)	第451回東京大学図書行政商議会(オンライン)
7月28日(水)	第52回駒場図書館運営委員会(オンライン)
7月29日(木)	令和3年度第1回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
11月19日(金)	第452回東京大学図書行政商議会(オンライン)
12月2日(木)	(臨時)東京大学図書行政商議会(メール会議)
12月21日(火)	令和3年度第2回東京大学学術資産等アーカイブズ委員会(オンライン)
12月22日(水)	第53回駒場図書館運営委員会(オンライン)
令和4年	
1月27日(木)	令和3年度第1回総合図書館運営委員会(メール会議)
3月4日(金)	第453回東京大学図書行政商議会(オンライン)
3月9日(水)	令和3年度第2回東京大学柏図書館運営委員会(オンライン)
3月15日(火)	第54回駒場図書館運営委員会(オンライン)

# 8. 全図書館・室統計

## 8.1 職員数、蔵書数、利用件数

図書館名	職員数		蔵書数						受入資料数						相互利用					
	常勤 (人)	非常勤 (人)	図書			資料類			図書			逐次刊行物			館外貸出					
			和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)	和文 (冊)	欧文 (冊)	合計 (冊)	和文 (冊)	欧文 (冊)	合計 (冊)	(内購入)	(内購入)	(冊)	交付 (件)	依頼 (件)				
																	総額 (千円)	和書 (冊)	洋書 (冊)	合計 (冊)
大学院法政学研究所・法学部図書室	12	5	301,493	546,726	848,219	2,267	3,882	6,149	129,734	3,676	4,859	8,535	5,151	604	728	1,332	857	—	388	116
近代日本法政史料センター	4	2	57,741	821	58,562	8,087	39	8,126	58	5	1	6	0	1	0	1	0	—	139	1
医学図書館	10	5	113,706	156,866	270,572	1,706	1,841	3,547	21,738	2,003	81	2,084	1,886	450	30	480	162	12,584	3,422	520
工学・情報理工学図書館	21	6	172,480	240,185	412,665	4,058	3,395	7,453	49,922	1,742	1,272	3,014	1,128	291	144	934	414	29,444	388	327
理学院人文社会系研究所・文学部図書室	6	17	562,840	588,303	1,151,143	9,547	4,670	14,217	54,219	5,156	5,262	10,418	4,240	560	569	1,129	738	11,816	474	485
理学図書館	7	6	42,314	180,299	222,613	1,479	4,432	5,911	15,168	343	730	1,073	293	213	159	372	92	7,221	109	124
農学生命科学図書館	10	4	269,093	187,069	456,162	7,895	5,504	13,399	28,008	2,563	4,251	6,814	764	1,085	472	1,557	612	10,526	1,183	107
経済学図書館	8	13	518,059	332,002	850,061	11,533	4,773	16,306	30,964	3,168	1,180	4,348	2,537	510	210	720	290	9,891	285	73
動物図書館・大学院総合文化研究科図書館	21	13	626,518	507,008	1,133,526	2,337	3,583	5,920	35,681	7,708	3,659	11,367	6,160	812	615	1,427	873	148,863	669	925
自然科学図書館	2	0	11,787	20,747	32,534	138	413	551	309	89	13	102	51	23	7	30	21	3,369	*	18
グローバル地域研究機構図書室	1	3	9,411	71,322	80,733	134	1,091	1,225	1,413	150	729	879	96	46	55	101	48	1,031	*	*
大学院教育学研究所・教育学部図書室	4	4	103,627	67,060	170,687	2,941	1,024	3,965	6,991	1,259	204	1,463	626	388	75	463	207	11,721	663	220
薬学図書館	2	2	14,570	37,029	51,599	438	448	886	2,231	195	457	652	183	70	2	72	10	1,996	90	41
大学院数理科学研究科図書室	2	3	15,859	143,020	158,879	109	1,630	1,739	40,211	105	1,950	2,055	1,820	25	446	471	295	1,533	70	0
大学院情報学理・学際情報学府図書室	2	4	71,920	55,491	127,411	1,384	1,362	2,746	2,511	583	164	747	296	149	43	192	99	3,467	403	172
社会情報研究資料センター	0	4	12,518	5,130	17,648	0	0	0	1,430	106	12	118	97	0	0	0	0	—	162	0
医学研究図書室	2	0	329	116	445	31	14	45	327	0	0	0	0	10	4	14	4	146	66	84
地盤研究所図書室	2	1	22,893	37,244	60,137	1,230	1,308	2,538	1,760	122	25	147	59	92	21	113	29	506	24	15
東洋文化研究所図書室	5	5	510,759	195,799	706,558	2,672	7,185	9,857	17,081	2,822	1,274	4,086	2,094	320	606	926	456	174	155	155
社会科学研究所図書室	7	0	216,845	143,469	360,314	5,348	2,264	7,612	16,167	1,448	682	2,130	1,166	614	160	774	292	7,088	132	12
生産技術研究所図書室	2	0	58,865	92,583	151,448	1,070	1,502	2,572	947	146	42	188	117	122	7	129	7	718	68	335
史料編纂所図書室	15	0	535,210	16,596	551,806	3,018	284	3,302	7,462	2,518	65	2,583	649	1,469	31	1,500	100	—	171	11
宇宙線研究所図書室	0	1	1,002	23,492	24,494	21	214	235	576	2	15	17	17	11	3	14	12	69	0	0
物産研究所図書室	2	1	7,767	59,775	67,542	99	635	734	9,860	213	163	376	300	40	2	42	32	2,692	28	4
大塚洋学研究所図書室	3	1	23,918	36,676	60,594	1,669	1,196	2,865	3,858	218	74	292	163	346	210	556	47	576	43	60
先端科学技術研究センター図書室	2	1	18,463	30,749	49,212	80	414	494	1,304	160	40	200	168	14	1	15	9	1,385	2	27
総合研究博物館図書室	1	1	9,405	2,253	11,658	738	356	1,094	0	337	7	344	0	213	25	238	0	91	0	1
部同図書室(室)計	153	98	4,309,392	3,777,830	8,087,222	70,029	53,459	123,488	479,930	36,837	27,211	64,048	30,061	8,478	4,625	13,602	5,706	264,907	9,134	3,833
総合図書館	41	14	885,057	489,970	1,355,027	11,909	9,981	21,890	1,611,929	14,187	10,812	24,999	7,252	1,209	196	1,405	191	172,033	3,094	22
柏園図書館	5	2	142,099	330,113	472,212	8,315	16,532	24,847	12,900	2,404	3,823	6,227	1,293	25	7	32	28	19,077	619	34
総計	199	114	5,336,548	4,577,913	9,914,461	90,253	79,972	170,225	2,104,759	53,428	41,846	95,274	38,606	9,712	4,828	15,039	5,925	456,017	12,847	3,889

(注)日本図書館協会大学図書館調査より  
(ただし職員数は附属図書館職員名簿(2022年4月19日現在)より/常勤には職域(時間)限定職員を含む)

## 8.2 経年変化

### (1) 蔵書数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2017（平成29）年度	9,665,812	1,285,461	673,355	432,333
2018（平成30）年度	9,745,659	1,296,961	681,053	445,286
2019（令和元）年度	9,808,256	1,308,515	687,934	453,869
2020（令和2）年度	9,854,341	1,330,955	693,124	460,477
2021（令和3）年度	9,914,461	1,355,027	699,977	472,212

(冊)

### (2) 所蔵雑誌種類数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2017（平成29）年度	167,607	21,503	5,817	23,877
2018（平成30）年度	169,875	21,506	5,841	24,081
2019（令和元）年度	169,965	21,536	5,757	24,386
2020（令和2）年度	169,650	21,473	5,768	24,639
2021（令和3）年度	170,225	21,890	5,920	24,847

(種類)

### (3) 資料費総額

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2017（平成29）年度	1,838,119	76,754	31,058	12,989
2018（平成30）年度	1,910,033	75,106	29,971	12,087
2019（令和元）年度	1,968,724	62,094	34,291	12,070
2020（令和2）年度	2,030,727	62,302	27,864	11,483
2021（令和3）年度	2,104,759	65,896	28,187	12,900

(千円)

### (4) 入館者数（延人数）

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2017（平成29）年度	1,783,205	322,006	693,600	39,055
2018（平成30）年度	1,825,598	448,547	672,408	39,634
2019（令和元）年度	1,900,623	550,874	706,078	33,694
2020（令和2）年度	373,459	166,088	57,123	13,399
2021（令和3）年度	806,360	377,648	207,018	16,895

(人)

### (5) 館外貸出冊数

	附属図書館合計	うち総合図書館	うち駒場図書館	うち柏図書館
2017（平成29）年度	484,890	114,924	165,941	31,822
2018（平成30）年度	503,376	135,076	171,140	29,227
2019（令和元）年度	528,522	152,975	178,548	25,715
2020（令和2）年度	302,491	116,312	87,424	14,200
2021（令和3）年度	456,017	172,033	146,863	19,077

(冊)

### (6) キャンパス間配送実績

	総件数	取寄せ件数	返却のみ件数
2017（平成29）年度	112,540	49,636	13,268
2018（平成30）年度	109,714	47,528	14,658
2019（令和元）年度	112,640	48,429	15,782
2020（令和2）年度	62,363	26,505	9,353
2021（令和3）年度	119,466	49,265	20,936

（冊）

### (7) ウェブサービス等アクセス数

	東大OPAC (検索回数)	附属図書館 ウェブサイト	GACoS	Literacy
2017（平成29）年度	5,263,724	1,136,901	704,424	—
2018（平成30）年度	5,371,135	761,933	728,711	—
2019（令和元）年度	5,767,232	760,965	756,726	—
2020（令和2）年度	4,255,151	737,183	957,590	—
2021（令和3）年度	4,304,685	965,858	693,607	230,300

（回）

※2017年9月に附属図書館ウェブサイト进行全面リニューアル、統計項目とデータ取得方法を変更

※2021年8月に学術情報にアクセスするためのポータルサイトGACoSは、Literacyへリニューアル

### (8) 電子ジャーナルダウンロード数

	CUP	Science	OUP	Springer Nature	Wiley- Blackwell	Elsevier
2017（平成29）年	31,748	171,636	224,286	1,386,094	792,470	2,265,331
2018（平成30）年	34,390	224,697	235,252	1,521,795	711,781	2,792,472
2019（令和元）年	27,244	149,344	122,454	1,072,442	589,101	1,329,439
2020（令和2）年	22,641	223,009	104,109	1,026,052	556,613	1,299,899
2021（令和3）年	26,685	140,443	138,422	1,192,758	640,983	1,508,520

（回）

※ 2017～2018年はCOUNTER 4準拠、2019～2021年はCOUNTER5準拠の数値

（2019年の数値はCOUNTER5で集計し直したものの）

#### 【参考情報】 図書館関連統計情報の公開サイトについて

- ・ 附属図書館 統計表

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ja/library/contents/about/statistic>

- ・ 主要情報サービス利用統計（情報システム部情報基盤課学術情報チーム）

<https://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/stat/index.html>

## 9. 付録 新型コロナウイルス感染症対策記録

令和3(2021)年

- 3月22日(月) 新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針レベル(以下、「東京大学の活動制限指針レベル」という。)0.5に緩和  
新型コロナウイルス感染拡大に伴う総合文化研究科の活動制限ステージ(以下、「総合文化研究科の活動制限ステージ」という。)イエローに緩和  
【総合図】 閲覧席利用及び学外者の資料利用再開  
【駒場図】 入館予約不要に変更、入館ゲート脇にサーモグラフィを2台設置、学外者のうち名誉教授・駒場友の会会員の入館再開
- 4月1日(木) 【駒場図】 教員申込による授業成果発表、駒場図書館企画に限り、展示ケース利用再開
- 4月26日(月) 【駒場図】 自動貸出機1台更新(東大駒場友の会より寄付)
- 4月27日(火) 東京大学の活動制限指針レベル準1に引き上げ  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジに引き上げ  
【駒場図】 名誉教授、東大駒場友の会会員を含む学外者の入館を停止、貸出期間の延長  
【柏図】 メディアホール等の利用を原則停止
- 4月29日(木) 【総合図】 短縮開館(平日:~22時30分→~21時、土日:~19時→~17時)、学外者の資料利用停止
- 5月12日(水) 【駒場図】 消毒液ディスペンサー3台設置(東大駒場友の会より寄付)
- 6月21日(月) 東京大学の活動制限指針レベルA(これまでのレベル0.5に相当)に引き下げ  
総合文化研究科の活動制限ステージイエローに引き下げ  
【総合図】 通常開館、学外者の資料利用再開  
【柏図】 メディアホール等の利用を再開
- 7月1日(木) 【駒場図】 学外者のうち、名誉教授、東大駒場友の会会員の入館再開
- 7月12日(月) 東京大学の活動制限指針レベルBに引き上げ  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジIに引き上げ  
【柏図】 メディアホール等の利用を原則停止
- 7月13日(火) 【総合図】 学外者の資料利用停止
- 7月20日(火) 【駒場図】 試験期間中の開館時間繰り上げ(~8月3日(火)の平日)
- 8月2日(月) 【総合図】 短縮開館
- 9月1日(水) 【総合図】 通常開館

- 10月4日(月) 東京大学の活動制限指針レベルAに引き下げ  
総合文化研究科の活動制限ステージイエローに引き下げ  
【駒場図】平日(土日祝除く)の開館時間延長、閲覧席とメディアパークの  
利用可能な座席数を1/3から1/2に変更  
メディアパークでのオンライン授業利用可(静粛限定)の試行開始  
新聞・新着一般雑誌コーナーのベンチを一部着席可に変更  
ラウンジを飲食不可のまま閲覧スペースとして開放  
【柏図】メディアホール等の利用を再開
- 10月11日(月) 【総合図】学外者の資料利用再開
- 12月13日(月) 【駒場図】来館困難者に対する図書館資料等郵送サービスの拡充及び文献複写  
等料金支払の対応柔軟化の試行開始

令和4(2022)年

- 1月4日(火) 【駒場図】一部学外者(元教員・館長許可利用者)の入館許可
- 1月24日(月) 東京大学の活動制限指針レベルBに引き上げ  
総合文化研究科の活動制限ステージオレンジIに引き上げ  
【総合図】学外者の資料利用停止  
【柏図】メディアホール等の利用を原則停止
- 3月7日(月) 【柏図】自動貸出機1台設置
- 3月28日(月) 東京大学の活動制限指針レベルAに引き下げ  
総合文化研究科の活動制限ステージイエローに引き下げ  
【柏図】メディアホール等の利用を再開
- 3月31日(木) 【駒場図】自動貸出機1台更新

\* 【柏図】開館時間については令和3年度を通して通常どおり(本文p.2参照)

「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針」に応じた総合図書館サービス（2021年8月26日現在）

活動制限指針 レベル	開館時間 土日祝日開館	閲覧席	平日夜間/土日休日/アジア研究図書館 総合カウンターサービス (予約本貸出/返却/自動書庫資料出納)	図書館資料の利用	保存書庫 地下閲覧室 閲覧個室	ライブラリー プラザ	オープンエリア 展示スペース 5Fラウンジ	学外者利用 施設見学	
S	通常開館 平日：9:00-22:30 土日祝日：9:00-19:00 ※3・8月は短縮開館	通常運用	通常実施（閉館時間まで実施）	通常運用	通常運用	通常運用	通常運用	通常運用	
		縮小		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常運用（学外者に一部制限あり）</li> <li>・本学在籍者に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施（送料無償）</li> </ul>		一部制限 (複数人会話禁止)		一部制限	予約制で受付
		大幅縮小		<ul style="list-style-type: none"> <li>・通常運用（学外者を除く）</li> <li>・本学在籍者に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施（送料無償）</li> </ul>		一部制限		一部制限	休止
D	原則休館	禁止	休止	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学在籍者に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施（送料無償）</li> <li>・教員及び学位論文（卒業論文、修士論文、博士論文）執筆目的の学生に対し、郵送できない書庫本を対象とした予約貸出サービスを実施（但し学部生は、入構について事前に指導教員の許可を得ることが必要）</li> </ul>	休止	閉室	閉室	閉室	
				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学位論文（卒業論文、修士論文、博士論文）執筆目的の学生に対して郵送による貸出・複写提供サービスを実施（送料無償）</li> </ul>					
E	完全休館								

新型コロナウイルス感染拡大防止のための東京大学の活動制限指針2021  
 (駒場 I キャンパスにおける運用/2021年6月21日から適用)  
 <「図書館の利用」部分を抜粋>

レベル (本部判断)	駒場 I キャンパス におけるステージ	図書館の利用
S	グリーン	感染拡大の防止措置を講じた上で開館します。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
A	イエロー	平日及び休日を短縮開館とします。 館内の感染拡大防止対策として閲覧席及びメディアパークの座席の間引きを行い、グループ学習室及び飲食スペースを閉鎖します。 閲覧席に限りがあるため、学外者の利用は一部の方に限らせて頂きます。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
B	オレンジ I (新設)	平日及び休日を短縮開館とします。 館内の感染拡大防止対策として閲覧席及びメディアパークの座席の間引きを行い、グループ学習室及び飲食スペースを閉鎖します。 閲覧席に限りがあるため、学外者の利用は一部の方に限らせて頂きます。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
C	オレンジ II (旧オレンジ)	平日及び休日を短縮開館とします。 館内の感染拡大防止対策として閲覧席及びメディアパークの座席の間引きを行い、グループ学習室及び飲食スペースを閉鎖します。 学外者の入館を停止します。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
D	レッド I (旧レッド A)	原則休館とします。 教員及び学生向けに、貸出中の圖書の返却期限一括延長を行い、電子ジャーナル等のオンラインサービスを継続します。 教員は、事前申請による講義に必要な資料の出納、貸出及び複写が可能です。 学生については入館停止とします。ただし、学位論文執筆のため資料を必要とする本学学生に限り、郵送による資料貸出及び複写物提供サービスを実施します。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
E	レッド II (旧レッド B)	完全休館とし、教員及び学生の入館を停止します。電子ジャーナル等のオンラインサービスは継続します。 学位論文執筆のため資料を必要とする本学学生に限り、郵送による資料貸出及び複写物提供サービスを実施します。詳細は図書館ホームページでお知らせします。
—	レッド III (旧レッド C)	完全休館とし、教員及び学生の入館を停止します。電子ジャーナル等のオンラインサービスは継続します。 学位論文執筆のため資料を必要とする本学学生に限り、郵送による資料貸出及び複写物提供サービスを実施します。詳細は図書館ホームページでお知らせします。

## 活動制限指針に応じた柏図書館のサービス

(令和3年6月21日:レベル表記を更新)

東京大学 活動制限指針	開館/休館	図書館施設の利用	資料の利用
レベルS	通常開館	・利用可能です	・利用可能です
レベルA	通常開館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学所属の学生・教職員は全館利用可能です</li> <li>・学外の方(入館証・友の会会員証をお持ちの方を除く)は閲覧室の利用はできません</li> <li>・入館証等をお持ちの学外の方は、所定の入館手続きにより閲覧室の利用が可能です、一部利用できない時間帯があります</li> </ul>	・利用可能です
レベルB レベルC	通常開館	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学所属の学生・教職員は、閲覧室、ラーニングサポートサービスの利用が可能です</li> <li>・入館証をお持ちでない学外の方は原則入館できません</li> <li>・入館証等をお持ちの学外の方は、所定の入館手続きにより閲覧室の利用が可能です、一部利用できない時間帯があります</li> <li>・メディアホール、コンファレンスルーム、セミナー室1, 2は原則利用できません</li> </ul>	・利用可能です
レベルD	完全休館	・入館できません	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本学学生および教職員に、事前予約による資料貸出を実施します</li> <li>・本学学生に、郵送による貸出/文献複写を実施します</li> </ul>
レベルE	完全休館	・入館できません	・本学学生に、郵送による貸出/文献複写を実施します

## 東京大学附属図書館

2022年7月20日 発行

編集・発行 東京大学附属図書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

電話 03-5841-2612, 2613 (総務課企画渉外チーム)

Fax 03-5841-2636

<https://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>

印刷・製本 (株)平河工業社